

いま、子どもたちは

大人たちが誇りをもつて

大人本意に堂々と生きればいい！

今井 嘉江

自分探しの探偵事務所

“シャーロックホームズ”の誕生

“大人から子どもまで誰もが集える場を……”と
自宅のワンフロアを開放した。

そのスペースの名称を“シャーロックホーム

ズ”とした。

“自分はなんなのか、なにをしたいのかをここで
出会った仲間と共に探っていく……、自分探しを
する“名探偵”を自分の中にもつけるため
に……”。

開設したのは四年前（一九九八年）。

一年目はイベントや講座などさまざまな催しを展開し、その存在をアピール……。イベント盛りだくさんの年。不登校の子どもが飛び込んできてホームページまでつくってくれた。

二年目はそのさまざまなイベントを通して出会った人どうしがネットワークをつくりはじめた。地域のイベントの事務局まで委託された。……。大忙しの年。

三年目はさらに活動が広がり、カンボジアで開催されたアート展にボランティアとして参加したり、中高生が中心になって“子ども事務局”まで立ち上げてしまった。その名は“コミュニケーション”。人と人とのコミュニケーションを大切にしたいという思いからだ。

こうしてそれぞれがそれぞれの力で歩み始めた四年目。このシャローックホームズの歩みは“人が生きる”“人が育つ”ということを実感してい

くプロセスでもあった。こうしたプロセスを子どもたちと共に体験していくこと……。時間を共有し、感動を共有していくこと……。それが“子どもが生きる力”を育てることであり、大人自身も成長する。これこそ“教育の原点”ではないのだろうか。

中学校の相談室から見える景色

もちろん景色といっても、わたしが現在通っている都内の中学校の相談室の窓から見える校庭の木々たち……ではない。ただわたしの相談員としての存在は学校という同じ箱の中にありながら、子どもたちからみたら、特に教員からみればよそ



者。だからこそ子どもたちの声や教員の叫びが聞こえる。あたかも学校という景色を見ているかのように……。

まず、それぞれの「育ち」がみえる。それぞれの「悲しみ」がみえる。

「大人たちのうそ」がみえている生徒たちがいる。その「大人たちのうそを見抜いている生徒たち」の姿がみえてない教師たちがいる。

いじめや学級崩壊はこうした生徒と教師のズレから、当然起こるべくして起こっているように思う。

育った国が違う、生まれた国が違うことでいじめを受けてきた生徒……。『超ムカツク』と訴えるその一言の言葉の陰に日本人の持つ偏見という人権感覚のなさというか非常にお粗末な人間性を感じざるを得ない。相談室にいて最も哀しい瞬間である。



こうしてお粗末な恥ずかしい人間性を育ててきたのはまさにわたしたち日本人の大人たちの意識や価値観に基づく生活の中からつくりだされてきたものであり、その反映が現在の子どもたちの表情や態度につながり、ひいては昨今のマスクミが群がるような事件の数々にもつながるのではないかと思っている。大人たち一人一人の責任は大きい。社会はわたしたち一人一人のあり方から構築されているのだから……。

優しい虐待？

虐待、DV……、暴力は夫から妻へ、親から子

へ、子から親へ、教師から生徒へ、生徒から教師へ……。えつ、一体どこの話？……。

中学校の相談室で、わたしが主宰する親子教室で、そしてシャーロックホームズで、保健所で……。わたしが現在かかわっているさまざまな場で容易に知ることのできる事実である。特にわたしが気になるのは教師から生徒への言葉による虐待。同様に親から子への言葉による虐待。

どちらにも共通している怖さは本人（教師・親）に虐待しているんだという自覚がないこと。生徒の為に……。子どもの為に……。良かれと思っ
て言っている優しい言葉。その言葉のもつ恐ろしいメッセージに大人たちは気づいていない。

それは大人の側の勝手な大きな期待であったり、歪んだ怒りであったり、憎しみや恨みであったり……。

こうした大人たちの勝手な期待がどれだけ生徒

や子どもたちを責め、苦しめているか……。教師間の苛立ちや自分を理解してくれない夫に対する怒りや憎しみ、恨みを歪んだかたちで生徒や子どもたちに反映している……。それも虐待というかたちで……。

そのことに気づいている大人は極めて少ない。たとえ気づいたとしてもついついやってしまう。

“この子のため”という大義名分のもとに……。こうして傷ついた子どもたちがとる行動は容易に想像がつく。

人を傷つけるか……。自分を傷つけるか……。いじめや犯罪を繰り返すか……。ひきこもりや摂食障害等になるか……。

まさに現代の社会状況そのものである。

子どもたちのメッセージから受け取るもの

シャーロックホームズに寄せられたメールか

ら……。

“前提的な過剰と根本的な欠落、それが現代の

テーマ”

“自意識の主張とコミュニケーションの欠落”

“『開き直り』あらため『なげやり』”

不登校を経験したある青年の言葉から……。

“ぼくのまわりに一人でも謙虚な大人がいたら

……不登校にならなかつた”

シャーロックホームズの子どもたちの話し合い

から……。

“みんながかけがえのない”今”という時間を共

有し、悩みながらも楽しもうとして努力している

意識がある”

さらに子ども事務局の発行した小冊子

“talking butterfly”の表紙にこう書かれている

“自分のこと好きですか？”と。

国全体が方向性を失っている今、自信をもって

生きられない大人たちのなかで子どもたちも混乱し、人とかかわりに怯えて生きている。

大人も子どももみんな自分を大事にしたいと思っているし、人を大事に思っている。本当のコミュニケーションをとりたいと思っている。真の豊かさは人とかかわることではしか生れないし、傷ついた心は人とかかわることではしか修復できないのだから……。

大人自身もつと誇りをもって大人本意に堂々と生きればよい。少しだけの謙虚さをもつて……。(シャーロックホームズ代表)

シャーロックホームズの連絡先は次の通りです。

URL <http://member.nifty.ne.jp/sharlock-holmes>

mail azil4352@nifty.ne.jp